

福富草子絵巻 写本 一卷一軸

四 C 23

○江戸時代後期成か。黄土色宝尽文様表紙(絹・織出)。布目地に金切箔散らしの鳥の子紙。卷子装。最大寸法、縦三九・六糎×横一〇〇・八・五糎。本紙、縦三七・五糎×横九六九・六糎。料紙、絹。下絵なし。

○外題、桑染色の流水文様織出の原題簽に「福富草紙」と墨書。題簽寸法、縦二三・四×二・四糎。内題、なし。尾題、なし。

○序跋等、なし。

○印記、なし。『福富草子』は二巻本と一巻本とが存在し、本書は一巻本に相当する。一巻本は二巻本の下巻のみを独立させ、詞書を付したもので、複数の伝本が伝存、隣の婆の強欲ぶりと、爺の失敗譚とを語る内容となっている。主人公の名前は、二巻本から一巻本へ、高向秀武が福富織部、福富織部が乏少の藤太へと変わり、その老妻の名前も、ふとねが妻から鬼姥へと変わる。本書は黒の漆塗箱に収める。箱寸法、縦四五・七糎×横一一・三糎×高さ九・八糎。箱中央に「福富草子繪巻 一軸」と墨書。金切箔散らしの鳥の子紙で裏打ちを施す。東洋文庫ホームページに、全巻のデジタル画像が公開されている。参考文献、『新修日本絵巻物全集』十八(角川書店)、奥平英雄編『御伽草子絵巻』(角川書店)、『室町時代物語大成』十一(角川書店、一九八三年初版)。

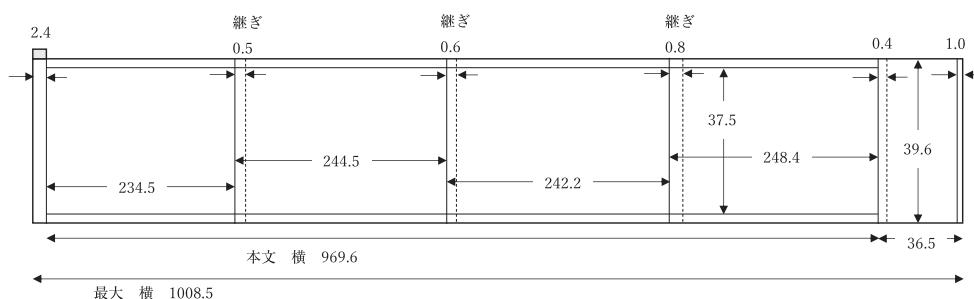
福富草紙 四-C-23 寸法イメージ図(単位: cm)

本文 縦: 37.5cm  
横: 969.6cm

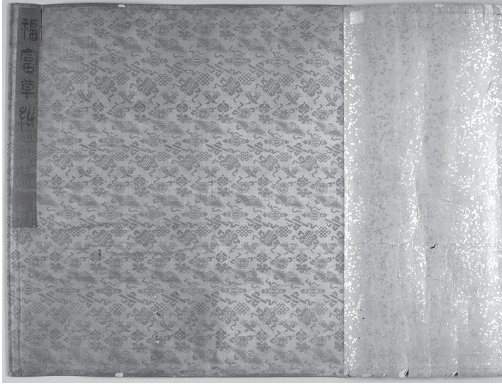
2018年11月9日

全体(最大寸法) 縦: 39.6cm + 0.9cm(天側の軸頭)  
横: 1008.5cm

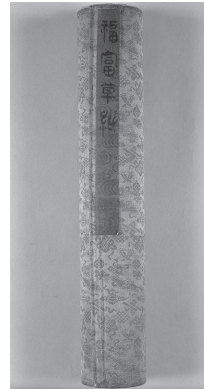
題簽 縦: 23.4cm  
横: 2.4cm



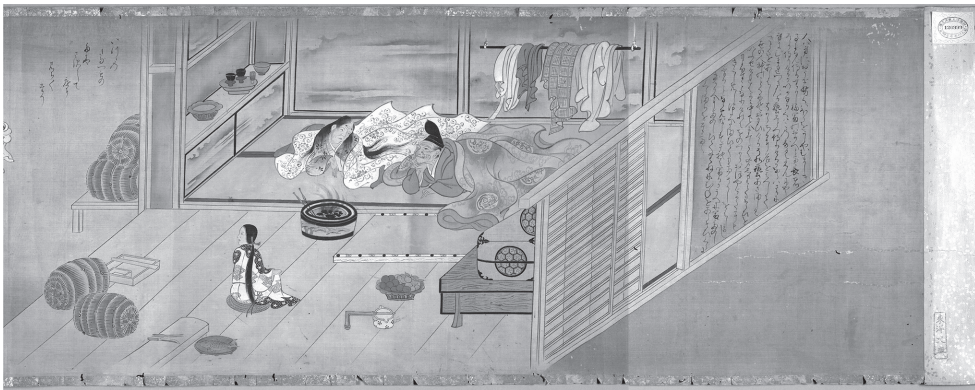
福富草紙寸法 (東洋文庫計測)



表紙



巻子を巻いた状態



巻頭



巻末